



特定外来生物の農地侵入

- 一度農地へ侵入・定着すると根絶は困難となり、同水系で拡散する恐れがあります
- 早期発見(畦沿い、水口、ほ場の侵入口に多い)、早期駆除が重要

見つけたらまずは最寄りの農業農村振興事務所へご連絡ください

大津・南部：077-567-5421 甲賀：0748-63-6127 東近江：0748-22-7727
 湖東：0749-27-2232 湖北：0749-65-6629 高島：0740-22-6028

その他、外来生物法や外来植物に関するご質問は、県自然環境保全課へ
 自然環境保全課 生物多様性戦略推進室：077-528-3483

農地に侵入する主な特定外来生物

オオバナミズキンバイ



黄色の5弁花
(径4cm程度)



注) 右はよく似たヒレタゴボウ
(4弁花)



花茎からは細長い葉
節から互い違いに生える
(互生)



多数の種子が入った子実

←茎
越冬時は赤色
表面全体に細く
短い毛が密生



匍匐茎からは
丸みのある葉

- ・実が水に浮いて流されて種子でも増える
- ・鳥が種子を食べ、その糞から種子が発芽することも

ナガエツルノゲイトウ



夏～秋に球状の
白い花を付ける



注) 右はよく似たスペリヒユ



葉は節から一対で生える
(対生)
生育すると先がやや尖る



ゴボウの様な直根



生育初期は
やや丸みのある葉

- ・国内の系統には種子はできない

特徴

- ・茎の断片からも栄養繁殖が旺盛で、水中でも陸上でも生育が可能
- ・匍匐茎は地面を這いながら枝分かれし、各節から根を出して増える

● 刈り払い機による除草はダメ!!

- 刈り払い機での除草は、裁断された茎葉の飛散により、多数の個体を再生させる恐れがあるので避けてください。(手間がかかっても、根までの「抜き取り」が基本です。)

注意!!

● 集落営農等、農機を共同利用する場合は要注意!

- 発生ほ場での収穫や耕起の作業は、発生していないほ場での作業を終えてから、いちばん最後に実施してください。



給水機周辺に繁茂
(左: オオバナミズキンバイ、右: ナガエツルノゲイトウ)



水路侵入
(左: オオバナミズキンバイ、右: ナガエツルノゲイトウ)

農地での防除方法

● 手取り除草・泥上げ作業

根も茎葉と一緒に駆除



メッシュ袋に入れるか、シートを敷くなどして、地面と遮断して枯死させる



※畦畔での除草後、放置したままだと拡散する恐れがあります。

※除去した植物体や植物片が混入した泥を地面に放置すると、そこで根を下ろしてしまいます。

※除去した直後、生きたままでの移動は、外来生物法により原則として禁止されています。

(袋などに入れれば可)

● 薬剤防除(散布前に農薬登録およびラベル等を確認願います)

【畦畔】 非選択性除草剤の使用により、地上部は枯れます。しかし、地下部は生き残ることが多く、その場合、1~2か月程度で再生します。再生が見つかれば再度防除する必要があります。これを生育期間中に繰り返して行い、徐々にほ場から排除していきます。

【本田】 ナガエツルノゲイトウは、水稻用除草剤の体系処理(初中期剤と中後期剤)で防除します。オオバナミズキンバイは、本田内に侵入した場合、効果の高い除草剤は確認されていないので、できるだけ畦畔からの侵入を防いでください。

● 遮光シートによる被覆

- 除草剤を用いない場合は、遮光率100%程度の遮光シートにより長期間(1.5~2年程度)被覆することでも、防除することができます。